

京都・平安京跡左京六条三坊六町

(1) 佐直明

所在地 京都市下京区楊梅通新町東入上柳町

1 調査期間 一九九九年（平11）一二月～二〇〇〇年一月

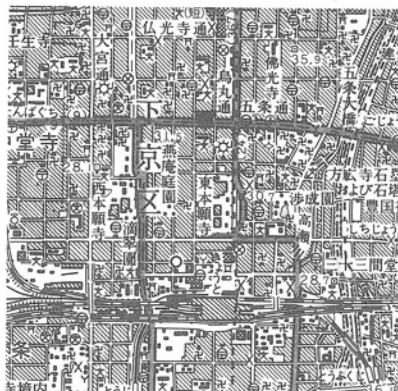
2 発掘機関 (財)京都市埋蔵文化財研究所

3 調査担当者 菅田 薫・竜子正彦・吉本健吾

4 遺跡の種類 都城跡

5 遺跡の年代 江戸時代

6 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(京都西南部・京都東南部)

三坊六町にあたる。平安時代中期、この町の北東部四分の一町に慶滋保胤の邸宅「池亭」があつたとされ、調査地はその南西部に位置する。調査の結果、江戸時代の井戸・湿地状堆積を検出した。墨書き製品は湿地状堆積シルト層から、江戸時代前期の染付椀・鉢・施釉陶器椀（唐津）とともに出土した。

木製容器の蓋とみられる。両面に墨書きが認められるが判読できた。
（菅田 薫）

釈読にあたっては、京都産業大学の井上満郎氏、京都大学の西山良平氏・吉野秋二氏のご教示を受けた。

（菅田 薫）

(109) × (29) × 4 061

